

(47)異常気象

この夏、日本列島は、日中の気温が 35 度以上になる日が続いたかと思うと、大型台風や集中的な豪雨が西日本を中心に襲った。8 月 20 日には、広島市で、大きな土砂崩れが生じ、50 人を超える住民が深夜の土石流によって住居ともども流され、死亡するという惨事が発生した。土砂災害による避難者は 15 万人にも及んだ。

世界的にも、異常気象は、今や異常ではなくなりつつある。2012 年 11 月のアメリカ合衆国におけるスーパー台風、サンディーの暴風圏は延長 1500km という途方もない大型のものであり、また、同年 12 月のフィリピン南部のミンダナオ島に上陸した台風ポーアでは、津波のような大波が集落を襲い、死者 1050 人、行方不明者 838 人、被害者総数 620 万人という甚大な被害をもたらした。

異常気象の背景には、地球の温暖化がある。二酸化炭素などの温室効果ガスの排出は年々増加し、大気圏の二酸化炭素濃度は上昇し、気温も産業革命以来上昇し、影響が深刻化する 2 度以内に抑制しようという試みが困難になっている。大気圏と海水面の温度上昇は、干ばつや異常気象を生み出している。

IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)の報告書によると、温暖化の影響は、自然生態系、食料、健康の分野で広範に被害をもたらす。日本の事例で言うと、平均気温が 2 度上昇すると、洪水、土砂災害、高潮によって、年間約 10 兆円の被害を発生させるという。

温暖化が生態系に与える影響では、イロハカエデが、過去 50 年で紅葉日が 15 日以上遅れていることが指摘されている。また、温暖化は、農林水産業にも影響を及ぼす。北海道で栽培される米がブランド米となり、温州ミカンの産地が四国から、関東、さらに東北にまで遡るのではという事態が生じている。また、異常気象は、まちづくりや公共事業にも大きな影響を及ぼす。地球の温暖化を前提に、それに適応・予防するための社会の在り方が求められている。

以上